



OKADA Report

第58期 株主レポート

平成28年4月1日 ▶ 平成29年3月31日

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 剰余金の配当 毎年3月31日 (当社は中間配当制度を採用しておりません。) 上記のほか必要と認めたときは、あらかじめ公告いたします。
単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所(郵便物送付先)	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	0120-782-031 (フリーダイヤル)
インターネットホームページURL	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
公告の方法	電子公告とし、当社ホームページに掲載いたします。なお、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。アドレスは、 http://www.aiyon.co.jp/
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部

株主優待のご案内



権利確定日	保有株式数	内容
平成29年 3月31日	100株以上	クオ・カード 1,000円分
	200株以上	クオ・カード 2,000円分
	500株以上	クオ・カード 3,000円分

生まれ変わる街の、その先端に。



「アーチ2020作戦」を 向上の矢印で確実に 推進してまいります。



代表取締役社長 荻田 俊幸

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、生産・輸出の持ち直しにより企業収益や雇用環境の改善が続き、総じて緩やかな回復基調の中で推移しました。また、世界経済は、英国Brexit、米国新政権誕生、および地政学リスクの高まりなどにより不透明感が続いたものの、年後半には欧米、中国をはじめ新興国・資源国などでも緩やかに景気の持ち直しが進みました。

このような環境のもとで当社グループは、主力商品の圧砕機、油圧ブレーカ、環境関連機器の販売に注力しました結果、当連結会計年度の業績は、売上高13,113百万円（前年同期比8.9%増）、営業利益1,106百万円（同45.6%

増）、経常利益1,092百万円（同51.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益696百万円（同58.6%増）と増収・増益になり、過去最高売上・最高益を更新することとなりました。

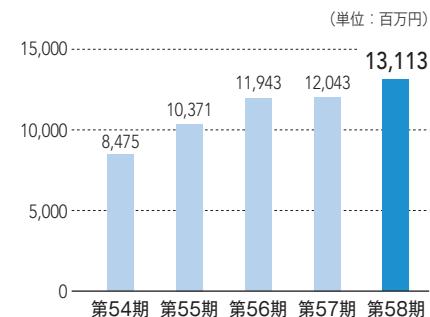
また、2015年度からスタートした中長期経営計画「アーチ2020作戦」に基づき、生産体制、営業体制、アフターメンテナンス体制、内部管理体制などの経営基盤の強化策を着実に実行してまいりました。

引き続き、全社一丸となり目標達成に向けて鋭意努力を重ねてまいります。

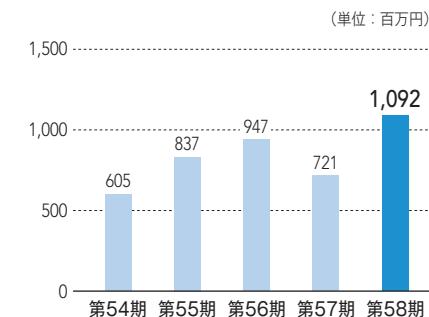
株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

財務ハイライト

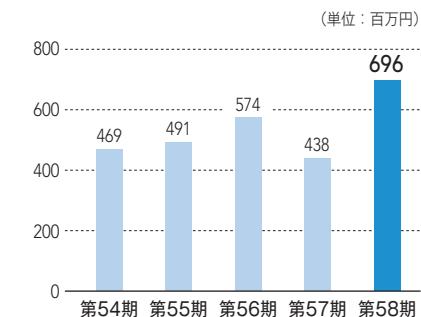
売上高



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



Q1 平成29年3月期の業績について教えてください。

A おかげさまで7期連続の増収、過去最高の売上・利益を更新することができました。

平成29年3月期は、建機業界全体がほぼ横ばいで推移した中、当社は7期連続の増収、過去最高売上・最高利益を更新することができました。特に、建機アタッチメントでは、圧砕機売上が前年同期比14%増となりましたが、平成28年4月から生産子会社アイオンテック朝霞新工場が本格稼働し、当社の得意とする大型圧砕機の増産体制が整ったことが寄与しています。また、

大型木材破砕機などの環境関連機器もバイオマス発電向けの需要が伸び、前年同期比41%増と順調に販売に結びつきました。

地域的には、東京オリンピック・パラリンピックに向けたインフラ整備や再開発、耐震・免震への建替え需要が旺盛な首都圏で15%増と順調に伸ばすことができました。

Q2 オカダアイオングループの強みを教えてください。

A 一貫通貫の対応力とそれを可能にする社員の底力です。

開発・製造から、販売、メンテナンスまで自社で対応できる「一貫通貫の対応力」が当社の強みの一つです。特に、主力商品である建機アタッチメントは油圧ショベルに取り付けて、コンクリートや鉄を破砕するのに使われますので、摩耗や劣化が激しくメンテナンスが必要です。当社では自社でメンテナンスを行っており、販売後も商品に関

わり続けることで、お客さまのニーズを的確にキャッチし、次の商品開発に活かしていくこともできます。

また、頑丈で耐久性に優れた競争力のある商品を提供し続けていけるのは、社員のチャレンジ精神と弛まない努力の積み重ねだと思います。この社員の持ち場持ち場の底力が当社の最大の強みだと確信しています。

Q₃ 中長期経営計画「アーチ2020作戦」の進捗状況を教えてください。

A 主要施策は計画通り進捗していますが、課題は尽きません。

「アーチ2020作戦」で各数値目標10%を掲げている財務目標「トリプル10」に関して、平成29年3月期は売上高伸び率8.9%、売上高営業利益率8.4%、ROE9.7%と、着実に進捗しています。

一方で、売上高2倍、シェア2割アップ、海外売上2倍の営業目標「トリプル2」に関しては、当初の計画対比やや遅れ気味ですが、今後は課題を克服し目標に拘っていく所存です。主要施策の進捗状況は次の通りです。

【主要施策の進捗状況】

① 生産拡大

アイオンテックの朝霞新工場の稼働により約20%の生産力アップを実現できました。組立人材の育成と部材・原材料の確保により更なる増産を目指しています。



▲アイオンテック朝霞新工場

② 国内営業強化

横浜営業所と東京オフィスの開設により、東京本店を中心とした首都圏3拠点体制を整備いたしました。

③ グローバル展開

米国に3拠点目のテキサス支店を開設し、納期短縮や修理対応など顧客対応力を強化いたしました。

④ アフターマーケット

専門部署を設置するとともに、自社メンテナンス体制の補完策として協力整備工場との連携体制を構築いたしました。

⑤ 新商品

SRC(鉄骨鉄筋コンクリート構造)用解体機「TSRC」シリーズ、新型油圧ブレーカ「TOP-V」シリーズ、クラス最大級の圧砕機「TS-WB2400V」を開発、発表いたしました。



▲TSRCシリーズ新商品

Q₄ 今後、力を入れて取り組んでいくことは何ですか。

A 「画期的新商品の開発」、「海外開拓」、「働き方改革」の3つです。

従来の課題に加えて、今年度に特に取り組んでいきたいことは3つあります。

1つめは画期的な新商品の開発です。

今期から「ワクワクものづくり推進室」という開発専門

部署を新設いたしました。お客さまからのご要望にお応えすることに加えて、ニーズを先取りした戦略商品、次世代の解体工法の研究・開発に力を入れていきたいと考えています。

2つめは「海外市場の開拓」です。

目下の課題は最大マーケットであるヨーロッパ市場の開拓です。昨年度は欧米仕様の圧砕機の開発を行いました。当社ではアメリカに販売現地法人を有しておりますが、今期はヨーロッパでも拠点開設を行い、戦力商品の投入により市場開拓を進めてまいります。

3つめは「働き方改革」への取り組みです。

前期まで7期連続の増収を重ねてまいりましたが、今後も持続的に成長を続けていくためには、業務プロセスの見直し等による生産性の向上が不可欠です。また、社員の幸福度アップ、満足度アップなくしての成長もあり得ないと考えています。

「働きやすい、働きたくない、働きがいのある」会社を目指して、働き方改革に取り組んでいく所存です。

Q₅ 新商品開発（ワクワクものづくり推進室）についてもう少し詳しく教えてください。

A 今までにないワクワクするようなものづくりを目指しています。

既に発売されている商品に対して寄せられたニーズを次の製品づくりに活かし、継続して改善していくことは、メーカーとして重要な使命だと考えます。しかし、従来品の改良という視点だけではなく、これまでに無い画期的な、人をワクワクさせる商品を世に送り出すことが、メーカーと

しての責任であり、醍醐味であると考えています。

この部署は若手を中心に構成しております。まだ少人数ではありますが、是非、若者らしい思い切った発想や情熱をものづくりに注いで欲しいと願っています。

Q₆ 目指す姿や将来のビジョンを教えてください。

A 「トリプル1」の実現により「社会に存在価値ある会社」を追求し続けます。

当社の経営理念のトップには「社会に存在価値ある会社」と書かれています。社業である「壊す機械、壊す技術」を通じて、都市の再生や環境保全などに貢献し社会における存在価値を高めていくことが会社の目指す姿です。その実現に向けて現在、中長期経営計画「アーチ2020作戦」に取り組んでいますが、そこで掲げている全社目標「トリプル1」、すなわち、

〔一流〕一流のプロ集団による

〔一級〕一級の製品・サービスにより

〔一強〕業界NO.1の企業グループを

目指す

Active
Innovat.
Young
Original
Network

をこれからも追求してまいります。どうぞご期待ください。

製造設備増強工事を終え、 2016年4月に本格稼動を始めた 「アイオンテック朝霞工場」。

効率良く製造するための導線を意識したレイアウト配置、各社員毎にゆとりを持たせた組み立てスペース、大型クレーン設置はもちろんのこと、研修室、カフェテリアも充実させて、社員の職場環境を向上させました。

現在は従来比約20%増の生産能力となりましたが、将来的には能力倍増を目指しています。今後も主力製品工場としてのみならず、当社商品アピールの場として活用していく予定です。

名称 **アイオンテック朝霞工場**

住所 **埼玉県朝霞市上内間木357-1** 敷地面積 **7,910㎡**

【施設紹介】



1階 / 事務所スペース

商品設計にあたっては、打ち合わせしやすいレイアウト配置。部署間の壁を設けず、お互いの業務状況を把握しやすいようにしました。



部品庫

即納体制を実現するために、組み立て部品をメインに保管しています。部品切れを起こさないように常に在庫管理を徹底しています。



塗装ブース

環境に配慮し、塗料に含まれる有害物質を外に漏らさないよう、開閉スピードの速いシャッターを設けています。



組み立てスペース

当社商品の組み立ては分業ではなく、一人一人が最後まで責任を持つ「セル方式(責任担当制)」です。そのため、担当者毎に余裕を持ったスペースを割り当て、作業しやすい環境を確保しています。



研修室

職種別・階層別研修に加えて、オカダアイオン社員への設計説明・技術共有等も行える広い研修室です。



カフェテリア

ゆったりとしたスペースを確保し、体力維持のために昼寝休憩も取れるようにしています。

2018年3月卒業生向けインターンシップを2月に朝霞工場で行ったところ、学生の皆さまは綺麗に整頓された広い工場に目を輝かせていました。

TOPICS

第26回 2017 NEW環境展に出展しました。

5月23日(火)~26日(金)の4日間、東京ビッグサイトにて開催されたアジア最大規模の環境ビジネス展「2017 NEW環境展」に出展しました。資源リサイクルに関わる600社以上の企業が参加する中、全来場者数は約15万8千人、当社は最大規模の展示スペースを確保して約3,200人のお客さまが来場されました。

当社ブースでは、迫力のある超大型クラッシャー「TS-WB2400V」、これからの解体分野で省力化が期待される「内装解体機」が多くのお客さまに関心を持っていただきました。今後もこれまでに無い画期的な商品を創り出してまいります。



CONEXPO2017に出展しました。

3月7日から11日まで、アメリカ・ラスベガスにて行われた建機展「CONEXPO2017」に当社も出展しました。

この展示会は世界の三大建機展として知られており、今回の来場者数は4日間で約15万人でした。

日本では騒音規制により使用される機会の減った油圧ブレーカですが、海外では今も解体工事の主役です。

「CONEXPO2017」では、海外仕様の油圧ブレーカに加え、メンテナンス性を高めた圧砕機を中心に発表したところ、多くのお客さまにご好評をいただきました。



新製品

1. 内装解体機(参考出品)

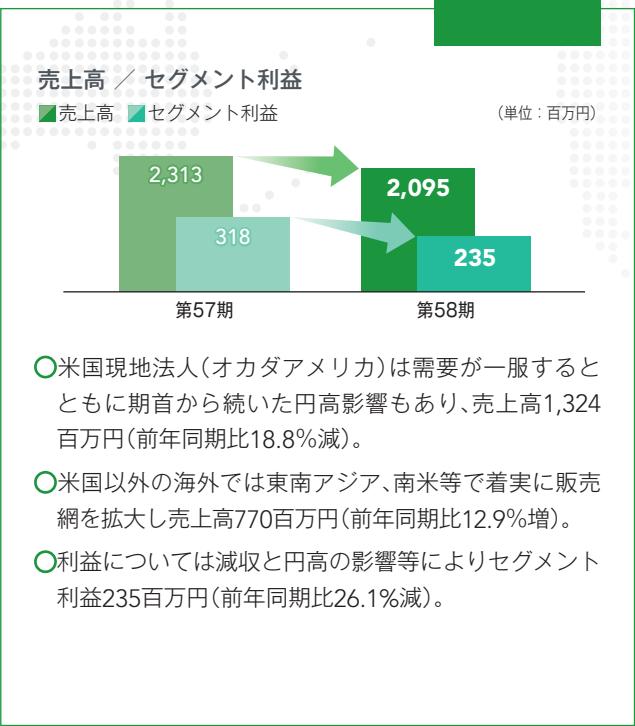
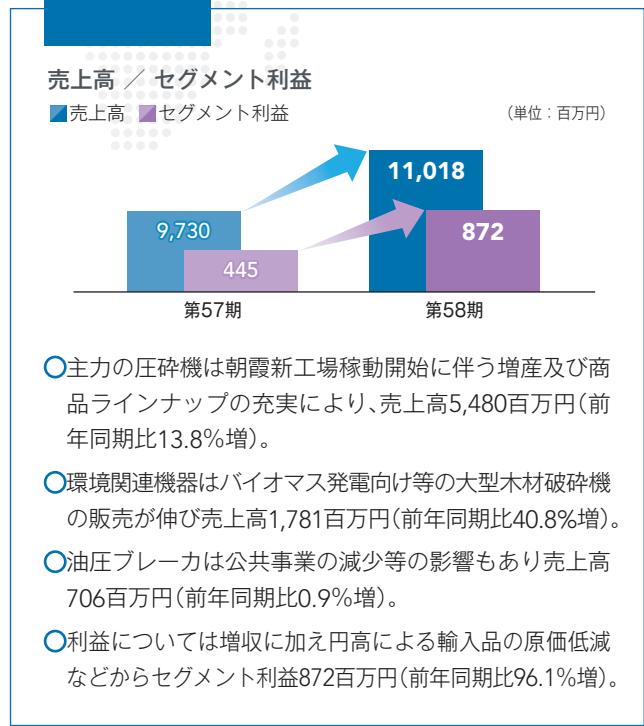
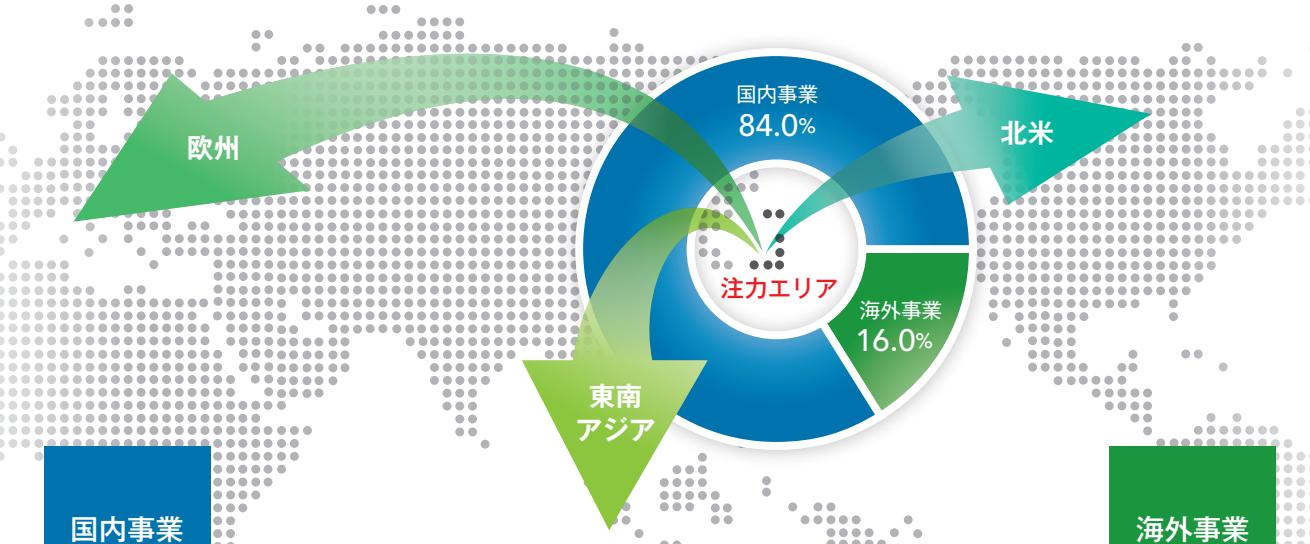
リフォーム工事向けの「自走式内装解体機」を開発しました。車両に破碎アタッチメントを乗せた一体型で排ガスの出ない電動方式です。内装解体は従来、人手に頼っていましたが、本機はリモコンの遠隔操作で自走し解体作業ができるので、安全で省力化が図れ、エレベーターを使つての高層階への移動も便利です。今後の内装解体分野での活躍を期待しています。



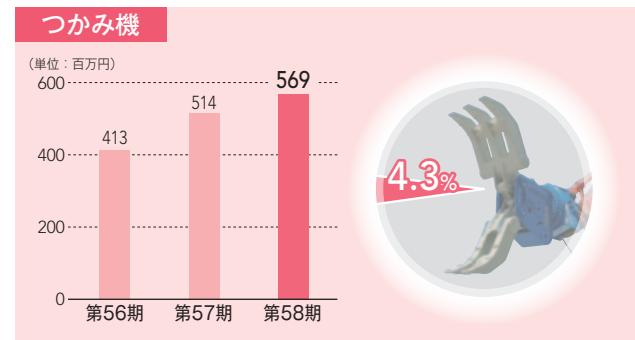
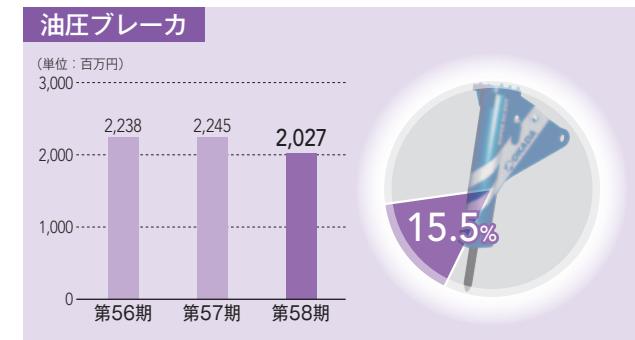
2. TS-WB2400V

大割圧砕機「TS-W」シリーズ最大モデルのTS-WB2400Vを開発しました。開口幅は2,400mm、質量12トン(乗用車約8台分の重さ)で大型油圧ショベル(100トン以上)に装着して活躍します。首都圏を中心に大型ビルや大型プラント施設の解体が増加しており、省力化・工期短縮が図れる大型アタッチメントのニーズがますます高まっています。



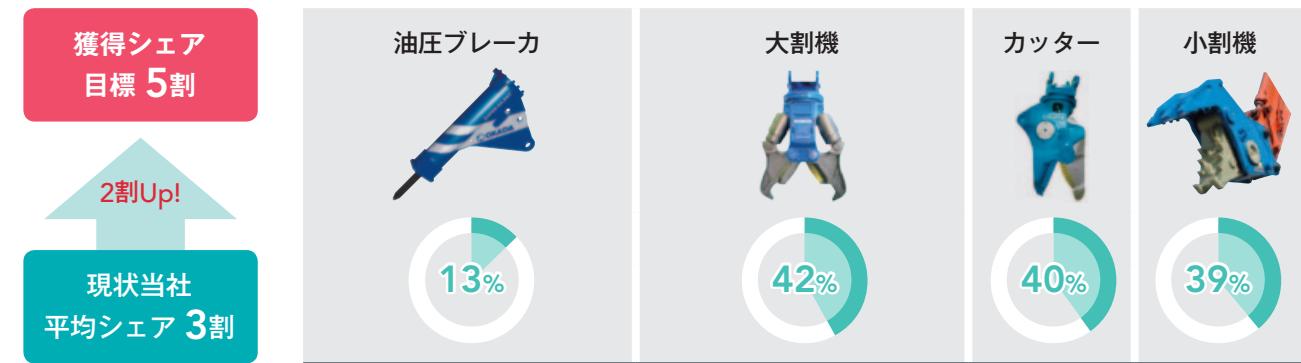


品目別売上高



※円内は主要機種の上高構成比

主力解体機国内シェア状況

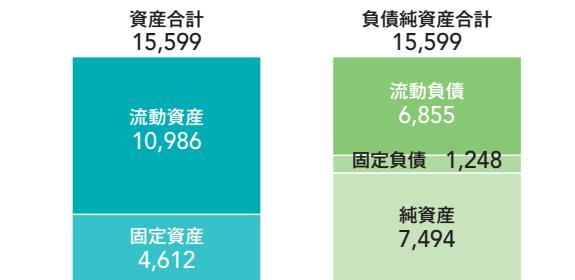


※1. 円内は国内マーケットシェア
 ※2. 平成28年度日本建設機械工業会発表資料を基に当社推定

連結財務状況

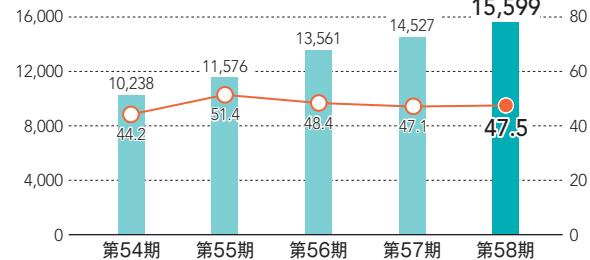
当期末の資産の状況

(単位:百万円)



総資産/自己資本比率

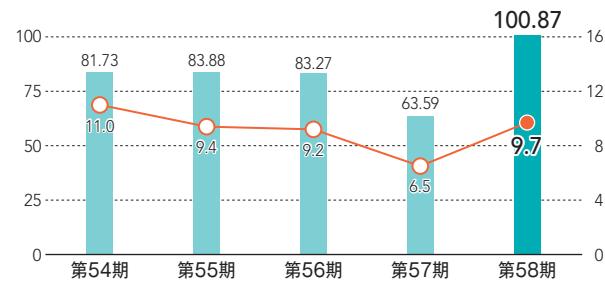
■ 総資産(百万円) ● 自己資本比率(%)



1株当たり情報

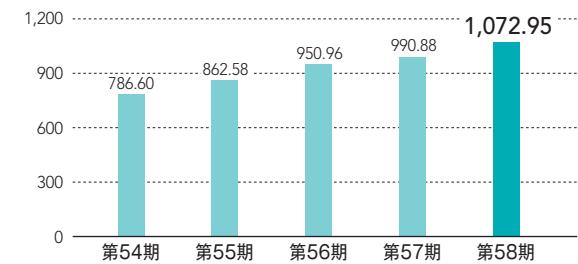
1株当たり当期純利益/ROE

■ 1株当たり当期純利益(円) ● ROE(%)

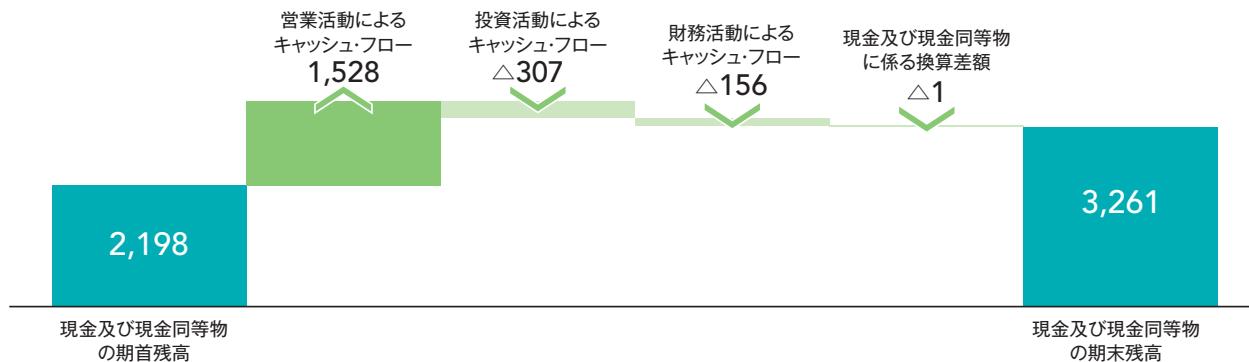


1株当たり純資産

(単位:円)



連結キャッシュ・フロー計算書(単位:百万円)



※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社の概要 (平成29年3月31日現在)

商号 オカダイオン株式会社
OKADA AIYON CORPORATION
本社 〒552-0022
大阪市港区海岸通四丁目1番18号
TEL. 06-6576-1281

設立年月日 昭和35年9月1日
資本金 1,473百万円
従業員数 175名

主要な事業内容

- ▶ 油圧ブレーカ TOPシリーズ、TOP-Vシリーズ、超低騒音Sシリーズ
- ▶ 圧碎機 TS-WBクラッシャー、TSRCクラッシャー、TS-Wカッター、TS-Sカッター、カットクン、コワリクン、マグネットコワリクン
- ▶ 環境関連機器 ビッグバス、ログバスター、タブグラインダー、ウッドホグ、トンメルスクリーン、サイレントアミダス、アイオン与作プラント関連機器

主要な営業所

東京本店・関西支店・札幌営業所・盛岡営業所
仙台営業所・横浜営業所・中部営業所・北陸営業所
広島営業所・四国営業所・九州営業所・東京オフィス
海外事業所

子会社

株式会社アイオンテック
Okada America, Inc.

役員 (平成29年3月31日現在)

代表取締役社長	荻田 俊卓	幸児 二司
取締役	折尾 耕祐	二司 男和
取締役	折尾 信照	男和 浩男
取締役	岡前 山川	浩男 均生
取締役	山川 島本	均生 光毅
取締役	岡古 田	
常勤監査役	打戸 奈田	
監査役	稲田 幸正	
監査役		

株式情報 (平成29年3月31日現在)

発行可能株式総数 20,000,000株
発行済株式の総数 7,228,700株
株主数 11,763名

大株主[上位10名] (平成29年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
岡田勝彦	369	5.35
岡田眞一郎	348	5.04
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	309	4.48
極東開発工業株式会社	300	4.34
株式会社三井住友銀行	242	3.51
株式会社三菱東京UFJ銀行	220	3.18
株式会社テイサク	185	2.68
株式会社池崎鉄工所	180	2.60
萱岡和夫	174	2.53
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	145	2.10

(注)持株比率は、自己株式(325,269株)を控除して計算しております。

配当金と配当性向の推移

